染色産業と繊維学会

Partnership between the Society and the Industry in the Field of Textile Dyeing and Finishing

山 田 稔

「繊維は斜陽産業である。」長く言われてきた言葉である。業界人としては耳にたこができた言葉でもあるし、非常に失礼な物言いだと感じている。私がまだ学生だった頃の第二次オイルショック頃から私の耳には聞こえだしたように覚えている。多分、それ以前から言われていても、本人に自覚がなかったのだと思われる。現実には、数量ベースの繊維(衣類)の輸入浸透率は、約90%に達している。金額ベースでは、約50%である。

一方、「繊維は日本の一大産業である。」これもよく言われる言葉である。そして、昨年まとまった経済産業省の「新繊維ビジョン」にも、「現在わが国の繊維製造業の技術力は世界一で -- 」とも表現されている。

「新繊維ビジョン」は、「日本の繊維産業は、今もって一大産業であるが、往時に比べ輸出が大きく減少し、また、輸入品に大きく押され、“斜陽産業”のイメージが定着している。しかし、輸入は頭打ち傾向を示しており、構造改革を推進すれば、国際競争力を持った強力な産業に飛躍する十分な可能性を有している。」としている。そして、その中で「今後の5年間で最後の改革期間であり、この間に構造改革を本格的かつ集中的に行う。」と示されている。

一方、繊維業界の中で私の属している染色業界はどうであろうか。日本の染色加工業の業績であるが、国内加工数量で見た場合、1993年度の実績に対し、2003年度はその約55%とこの10年間でほぼ半減に近い打撃を受けている。これを金額ベースで見ると約53%と更に悪くなる。見たくもない決定的な数字とも言える。しかし、この数字も技術開発・商品開発をこなして多品種・小ロット・短納期に対応したからこそ残った数字であり、業界の底力とも言える。一般に繊維業界を川の流に例え、川上・川中・川下とした場合の川中に位置し、従来の下請け加工的存在から、20世紀の最終段階において、その内容の重要性、特に日本においては、繊維加工のキーインダストリーとして、

その重要性がクローズアップされてきたように感じている。「新繊維ビジョン」も、川中産業を重視した内容となっている。川中を潰してしまえば、日本の一大産業としての繊維産業が成り立たないからであると思われる。

ところで、繊維学会に目を転じると、個人会員の減少に留まらず、法人会員も減少している。私も平成14年度、15年度と学会理事を仰せつかり、以前よりは学会の内情にも接してきた。最近、繊維学会のイメージ作りがよく言われ、耳に聞こえのいいスーパー繊維やナノファイバーが話題として多く取り上げられる。最新技術分野に繊維の視点から入っていくことには価値があり、これらの分野は日本にとって非常に重要な分野であることに異論はまったくない。しかし、繊維産業はこれだけではない。染色も繊維加工技術として重要な意味を持つ。また、繊維は“学問”でもあるが、やはり、工学であり、工業に密着したものである。産業としての繊維は、複合技術であり、長い歴史の中で組み合わされた多くの技術群の総称である。これを小分けにして、特定分野だけに目を向けていていいのだろうか。折角の先人の例え「川上・川中・川下」は教訓であり、奥深き意味がある。

日本の繊維産業は、川上から川下までの複合技術として、どの分野も失うべきものではない。繊維産業の中他業界に比べ、染色業界と繊維学会には距離がある。それを埋める努力を双方がしなければならない。染色の立場にある者として染色も着実に技術を伸ばし続けなければと考える。その為には、繊維学会の力が必要である。学会も繊維産業あってこそその繊維学会ではないだろうか。繊維を先端技術のみでなく産業全体として捉え、先端技術のみに目を向けるのではなく、基盤技術の継承・発展とその産業的活用にも力を注ぐべきである。そのことに“学”として何ができるのか、よく考える時期にあると思う。学会には、産業界で活躍するリーダーとしての人材育成の分野も重要である。コーディネーターのみを育成しても仕方がない。本当の専門技術者を作らなければならない。それも華やかな最先端技術者だけでなく、地道な基盤技術者の養成こそが大切だと考える。そういった仕事を学会に期待し、繊維産業に根ざした繊維学会に変身して頂きたい。繊維産業界が、「新繊維ビジョン」に言う“最後の5年間”に挑戦するこの時期に、学会も“最後の5年間”に挑戦していただきたい。川上・川中・川下の全ての複合技術分野において。

MINORU YAMADA
東海染工株式会社
開発技術部長 弁理士 技術士
〒452-0068 愛知県西春日井郡西枇杷島
町子新田1-2
Tel: 052-504-9745 Fax: 052-503-1499
E-mail: m.yamada@tokai-senko.co.jp
専門 繊維染色加工、知的財産権
趣味 ハイキング、フィッシング